

番号 ④

事業シート（概要説明用）

事業名	南北市街地連絡バス運行事業	事業開始年度	平成20年度
担当部署	総務部企画財政課企画係	関係規程	北斗市南北市街地連絡バス運行事業補助金交付要綱
実施主体	株函館バス		

**事業概要**  
(背景等)

生活路線の運行がない区間において、運動公園・公民館(又は総合分庁舎)間の定時・定路の乗り合いバスを運行。運賃は100円。平成20年度から実施している。

【平成24年度運行計画】

- ・事業主体 株函館バス
- ・事業期間 H24.4.1～H25.3.31
- ・運行経路 別添
- ・運行本数 夏ダイヤ(4～11月) 往復11本/日、冬ダイヤ(11～3月)往復17本
- ・総事業費 12,832千円(市補助金 9,600千円)

【実施に至る背景】

- ・平成15年 生活路線 清川・文月線、千代田線廃止
- ・平成19年 合併に伴い旧両町住民の一体感醸成を高める必要があったこと、また、北斗市内2高校の通学の確保についても課題となっていた。

さらに、市街地の通学距離がある上磯中学校については冬季の交通手段確保について要望があった。

事業費の推移(千円)

年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
予算額 ①	-	13,500	10,882	10,600	9,600	9,600
決算額 ②	-	13,500	10,882	10,480	9,600	-
比較(①-②)	-	0	0	120	0	-
事業利用者数等	-	25,660人	26,670人	31,247人	34,130人	-

**事業の目的・対象**

<目的>

- ・旧両町住民の一体感醸成及び北斗市内2高校の通学確保を図ること。
- ・冬期間における上磯中学校の通学手段を確保すること(富川方面、久根別方面)
- ・旧大野町の沿線住民に対し、JRとのアクセスを意識したバスダイヤ編成に配慮。公共交通のネットワーク化を図る。

<対象>

- ・一般市民

**事業の効果等**

表1-南北市街地連絡バス乗降人数の推移 (単位:人)

		H20	H21	H22	H23
夏ダイヤ	のべ乗降人数(人)	8,435 (36.7)	8,410 (36.7)	9,090 (39.9)	9,265 (40.5)
	平日1日運行本数	往復16本	往復12本	往復12本	往復12本
冬ダイヤ	のべ乗降人数(人)	17,225 (133.5)	18,260 (140.5)	22,157 (169.1)	24,865 (189.8)
	平日1日運行本数	往復19本	往復17本	往復17本	往復17本
合計	のべ乗降人数(人)	25,660 (71.5)	26,670 (74.3)	31,247 (87.0)	34,130 (94.8)

注)カッコ内は1日平均の乗降人数

表2-南北市街地連絡バス事業収支の推移

		H20	H21	H22	H23
支出(対象経費)		16,338	13,624	13,586	12,898
収入	運賃収入等	2,774	2,864	3,089	3,369
	市補助金	13,500	10,882	10,480	9,600
収入-支出		▲ 64	122	▲ 17	71

**事業の環境変化等**

<環境変化・制度改正など>

- ・事業を開始し5年目となるが、市民の一体感醸成はある程度の効果があったのではないかと考えている。
- ・せせらぎ温泉の利用目的が多いが、団体利用を条件としている市バスと目的が事実上重複していないかという議論もある。

<事業に対する意見・要望等>

- ・臨時的な停留所設置について要望がある(お盆時期の野崎霊園停車)

**(課題その他)**

- ・本事業を廃止した場合、冬季の上磯中学校通学利用の手当をする必要があるものと考えている。